指導教員名	長坂泰之

活動区分		連携先	
	地域活性化型		リノベーション事業者
	商業活性化型		商店街
	イベント企画型		

～　神戸から陸前高田に祭りがやってきた～子供夏祭り～　～

活動の様子

当日朝の会場全景。たくさんの方が来てくれるかどうか、学生の心は期待と不安が入り乱れました。

「夏祭り」会場の風景。多くの家族連れ、子供たちが来場し、地元の皆さんから感謝の言葉をいただきました。

災害公営住宅から見た陸前高田の市街地。空き地が散見され、復興が完全に完了したとは言えないのが実情です。

企画・活動概要

陸前高田の商業者の皆さんと協議の結果、大学のない陸前高田市で、親子連れや子供たちをターゲットに、夏祭り・学園祭的なイベントを実施することにより、普段なかなか交流ができない大学生との交流を図ってもらうことを目的として実施しました。具体的には、射的、スーパーボールすくい、千本引き、駄菓子掴み取りなどのイベントの実施を通じて、子どもたちと交流を図るとともに、神戸新長田のソウルフードである「そばめし」を提供することで、「祭り」を盛り上げました。また、千本引き、駄菓子掴み取りなどのイベントの商品も神戸らしいものを選択しました。

当日のチラシ。事前に市内の保育園、小中学校・高校にも配布していただき、当日はたくさんの方に楽しんでいただきました。

経緯・背景・目的

2022年度の陸前高田での合宿では、陸前高田の魅力を「見える化」し、魅力的な観光ルートを提案しました。報告会の際に「提案はよかったが、来年度は皆さん自らが活動して陸前高田を盛り上げて欲しい」と言う意見をいただきました。そのコメントを受けて2023年度は、ゼミ生が大学のない陸前高田市で、親子連れや子供たちをターゲットに、夏祭り・学園祭的なイベントを実施することにより、普段なかなか交流ができない大学生との交流を図ってもらうことを目的として実施しました。ゼミ生も活動を通じて社会人としての基礎的能力が身に付くと考えました。

同時開催で、「まちなかのお店によってって！！」を実施。イベントである「子供夏祭り」の来街者に来店を促す商業者の企画。

取り組む課題

大学のない陸前高田市は、高校を卒業すると仙台や東京の大学に進学したり、就職してしまいます。当然、子供たちは、大学生やその世代の若者との触れ合いは限られたものとなります。大学のない陸前高田市で、親子連れや子供たちをターゲットに、大学生が夏祭り・学園祭的なイベントを実施することで、普段なかなか交流ができない大学生との交流が図られます。地域としても、この時期にまちなかの賑わいを創出する事業がなかったことから、継続的な賑わいづくりのために何かできないかと考えていました。

陸前高田市の奇跡の一本松。ゼミ生一同で東日本大震災の津波被災地で亡くなった方々への鎮魂と復興を祈念してきました。

本学（学生）の役割

学生の役割は大きく3点です。学生の最大の役割は、①まちなかの賑わいづくりへの貢献です。まちなかの活性化には、まちなかへの集客が欠かせません。多くの家族連れ、子供たちがまちなかに来ることで賑わいづくりに貢献できます。次に②子供達との交流です。大学生世代と子供たちの交流により、大学や大学生というものをより身近に感じることができます。RYUKAちゃんも団扇で陸前高田に上陸しました。最後に、③「食」を通じての神戸と陸前高田の交流です。神戸新長田のソウルフードである「そばめし」を提供することで、「祭り」を盛り上げました。

今回、協力いただいた地域の方々（商工会長兼アバッセ理事長、まちなか会会長、まちづくり会社の方々）とゼミ合宿メンバー。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

学生が身についた能力は次の3点です。まずは①「計画力」です。地元の要望をお聞きし、ゼロから企画を立案し、提案、修正し、実行し、計画力が身に付きました。次に②計画段階における「創造力」です。陸前高田市と神戸市は「地震災害地」という共通点があります。この点から、提供する商品やゲームの景品を「神戸らしさ」を持たせ、それが地元の方との会話や親近感を持ってもらうことに繋がりました。最後は③「柔軟性」です。コロナ感染で急遽合宿に参加できないゼミ生が発生、合宿メンバーで役割分担を見直し、当日の運営に支障が出ないように柔軟に対応しました。

合宿最終日の現地での振り返りの様子。感謝の言葉やたくさんのアドバイスをいただきました。（会場は、陸前高田商工会会議室）

指導教員および関係者の紹介

＜指導教員＞

商学部
マーケティング学科
教授
長坂泰之（ナガサカ　ヤスユキ）

＜専門・担当科目等＞
流通政策、中小企業経営、震災復興

「チャレンジ」の長坂泰之ゼミナールです。「商業まちづくり」、「店舗経営」に興味がある学生は大歓迎です！大きく変化する時代のど真ん中にみなさんは生きてます。そして、みなさんにはこれからたくさんのビッグウェーブが訪れます。ゼミ活動で様々なチャレンジをして自分を磨いて、ビッグウェーブに乗れる人材になってください。

＜関係者・企業等＞

高田松原商業開発協同組合（商業施設「アバッセ」運営法人）
理事長
伊東孝（イトウ　タカシ）

陸前高田市は2011年3月11日の東日本大震災の津波被害でまちが壊滅的な被害を受けました。担当教員は、前職で陸前高田市の津波被災市街地の震災復興に携わり、現在も支援を継続しています。今回の「夏祭り」の開催会場「アバッセ」は、嵩上げした新市街地の中心にある復興を象徴する商業核施設となります。